



活動的な生き方を支える 運動器のエキスパート

当科は1906年に京都帝国大学医科大学に整形外科講座が開設されて以来、100年以上の長い歴史と伝統を誇っている。開設以来、整形外科のパイオニアとして、既存概念にとらわれないさまざまな取り組みを行ってきた。例えば、人工股関節手術は今でこそ変形性股関節症に対する一般的治療となっているが、当科は日本で最も早く1970年にチャンレー式人工股関節を導入した。現在も、オリジナルの人工骨や各種人工関節、上位頸椎疾患における手術支援デバイスの開発など、日本の整形外科治療のフロンティアを担っている。

代表的診療対象疾患

頸椎性脊髄症、頸椎性神経根症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、脊柱側弯症、脊柱後弯症、脊柱靭帯骨化症、脊髄腫瘍、脊椎腫瘍、変形性股関節症、臼蓋形成不全、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、肩腱板損傷、反復性肩関節脱臼、膝関節十字靭帯損傷、骨軟骨損傷、その他のスポーツ障害、関節リウマチ、骨粗しょう症、腕神経叢損傷、上肢先天奇形、悪性骨腫瘍、悪性軟部腫瘍

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

骨、関節、筋肉、脊椎、脊髄、神経などの運動器について、加齢に伴う変性疾患や、スポーツ障害、先天性疾患、腫瘍性疾患など、さまざまな病態を治療対象としている。運動器の機能回復をめざし、診断から内科的治療、外科的治療、そしてリハビリテーションに至るまでを一貫して担当している。脊椎脊髄疾患、股関節や膝関節などの関節疾患、関節リウマチ疾患、手の外科疾患、スポーツ整形外科などの各分野に特化した専門医を配置して治療に当たっている。

一般外来に加え、脊椎、骨軟部腫瘍、骨粗しょう症、リウマチ、股関節、上肢、膝スポーツ、骨系統疾患の各専門外来を開設しており、整形外科の広い分野をカバーする専門的な診療体制を整えている。日帰りまたは術後短期入院手術として、膝関節鏡、肩関節鏡による診断と治療、手根管開放術などの上肢手術、骨軟部腫瘍切除手術などを行っている。

入院診療体制と実績

病床数は55床で、2014年の手術数は854件であった。主に手術を目的とした入院治療を行い、その他に悪性骨軟部腫瘍の化学療法、関節リウマチ患者の生物学的薬剤治療などを行った。手術を年間800件程度行っており、内訳は人工股関節手術約120件、人工膝関節手術約100件、脊椎脊髄手術約120件、骨軟部腫瘍手術約110件をはじめ、関節形成術、骨軟骨移植術、膝靭帯再建術、骨折手術などである。

臨床研究の取り組み

多様な臨床研究を展開

運動器疾患の病態解明・治療法開発のため、多くの臨床研究に取り組んでいる。いずれも外部委員を含む倫理委員会において厳しい審査を受けた後、承認を経て遂行される。

- ①骨肉腫術後補助化学療法におけるIfosfamide併用の効果に関するランダム化比較試験
- ②Discovery人工肘関節の観察研究
- ③骨切り、骨螺子挿入用カスタムガイド

- ④特異性大腿骨頭壊死症における塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)含有ゼラチンハイドロゲルによる壊死骨再生および骨頭圧潰阻止に対する安全性に関する臨床試験
- ⑤カスタムメイド型チタン人工骨を用いた頸椎前方再建術の安全性と有効性に関する臨床試験
- ⑥人工膝関節置換術の臨床成績の長期観察研究